

ふれあい

2024

1

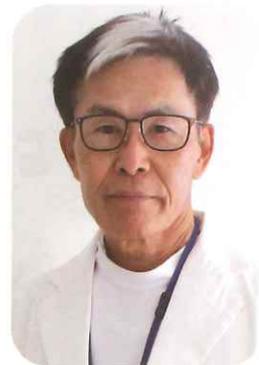
No.442

牛久愛和総合病院 広報誌



新年のご挨拶

病院長 瀬下 明良



新年おめでとございます。

2024年が始まります。

今年は何のような1年になる

でしょうか。参考に昨年の出

来事の総集記事を見ると、想

像もしないような実に多くの

ことが起きていました。ただ

医療に関しては、5月に新型

コロナウイルスがインフルエ

ンザと同じ「5類」に移行し

たことが大きな出来事でした。

その後も感染は波のように繰

り返しましたが、一般の日常

生活は様々な制限が無くなり、

ほぼ元に戻っているようです。

今はインフルエンザが中心に

なっていますが、新型コロナ

も再燃が心配されています。

令和6年度からの厚生省およ

び茨城県第8次保健医療計画

では、従来の5疾病5事業に

「新興感染症発生・まん延時

における医療」が追加され、6

事業になりました。救急、災害、
へき地、周産期、小児医療と
同様の対策が感染症にも必要
と国も考えています。実際に
は、病院は病状の重い方や高
齢者も多いので、スタッフは
もちろん来院される方にも、
今後も感染対策にご協力をお
願いします。

さて今年の大々な出来事は、

働き方改革でしょうか。あら

ゆる職種で話題になっていま

すが、4月から医師にも実施

されます。質と濃度が高くな

り、医療は年々良くなってい

ますが、結果的にスタッフの

仕事量が増加し、とくに医師

の時間外労働が過剰となって

います。このままでは医師は

もちろん、医療にも悪影響が

予想されます。ただ医師数は

急には増えないので、多職種

のチーム医療で仕事の効率化

や、病院とクリニックの役割

分担などが必要です。当院も

昨年8月に茨城県より紹介受

診重点医療機関の指定を受け、

より近隣の医療機関との連携

を強くし、役割分担を考え紹

介、逆紹介を勧めています。
また救急医療の分野での逼迫
が予想され、病院の輪番制や
適切な救急医療の体制など、
社会にも一緒に考えてご協力
いただくことが、地域の医療
を守るため重要と思われれます。

今年は何のような1年にし

ていきたいか。より良い病院

を目指していきます。「救急医

療」「予防医療」「高齢者医療

」を3つの柱として地域医療に

貢献することが当院の理念で

すが、従来よりの安全、安心

と寄り添う気持ちを大事にし

ていこうと思っています。ま

た1年、よろしくお願い申し

上げます。





高齢者とお薬について

薬剤センター 菅原 翼



高齢になると複数の病気を抱える人が増え、それらの治療のために何種類もの薬が処方されることが多くなりま

す。また、身体機能が衰えることにより、若い頃と比べて薬の効き方などに変化が起こります。そのため、高齢者が薬を服用する際は注意が必要であるといわれることがあります。

このような副作用を防ぐためには薬を自己判断で調節せず、処方された用法用量を守ることが大切です。また、薬の重複投与にならないようにするため、お薬手帳などを活用し、医師や薬剤師に現在服用している薬を伝えることも大切です。

口から飲んだ薬は胃や小腸で吸収され、血液にのって全身に運ばれ、目的の組織に到達すると、効き目を発揮します。吸収された薬は徐々に肝臓で代謝されたり、腎臓から排泄されたりして効き目がなくなり

ます。高齢者に起きやすい副作用としてふらつき・転倒があります。高齢になり筋力や感覚機能が衰えると、睡眠薬のような筋弛緩作用のある薬や降圧薬のようなめまい・ふらつきが起きやすい薬を服用することで、身体を支えきれず転倒することがあります。

さらには、高齢者は骨も弱くなっているため、転倒による骨折をきっかけに寝たきりとなる可能性もあります。高齢者では老化により腰痛や関節痛を訴えることがあり、その際に痛み止めを使用することがあります。痛み止めの中には腎臓に負担をかけ、腎臓の機能をさらに低下させる薬があります。腎臓の機能が低下すると薬を排泄するまでに時間がかかってしまい、薬の効き目が強くなることで副作用が起きやすくなることがあります。

排泄されたりして効き目がなくなり、腎臓に負担をかけ、腎臓の機能をさらに低下させる薬があります。腎臓の機能が低下すると薬を排泄するまでに時間がかかってしまい、薬の効き目が強くなることで副作用が起きやすくなることがあります。

腎臓に負担をかけ、腎臓の機能をさらに低下させる薬があります。腎臓の機能が低下すると薬を排泄するまでに時間がかかってしまい、薬の効き目が強くなることで副作用が起きやすくなることがあります。

腎臓に負担をかけ、腎臓の機能をさらに低下させる薬があります。腎臓の機能が低下すると薬を排泄するまでに時間がかかってしまい、薬の効き目が強くなることで副作用が起きやすくなることがあります。



部署紹介

B3階病棟

師長 酒井 和美

B3階病棟は、大部屋6部屋（6室）、個室8部屋、2人部屋（1室）の合計46床の病棟です。病棟の特徴は、外科系・内科系の全ての科の患者さんが入院する急性期混合病棟となっています。A・B・C館の中でB館は歴史のある病棟でもあります。看護師は総勢25名、新人看護師から家庭と仕事の両立に奮闘しているママさん看護師、男性看護師が活躍しています。年齢層は様々ですが、声を掛け合い協力し笑顔が絶えないスタッフが揃っています。また、予約入院・緊急入院もあり忙しい毎日ですが医師・リハビリスタッフ・薬剤科・栄養科・入退院支援部・MSWと連携を図り相談しながらチーム医療に励んでいます。

私たち病棟看護師は、あらゆる疾患に対応するため常に

学習し、安全・安楽で患者さんに寄り添った看護を提供できるような日々努力しています。入院される患者さんの不安や苦痛を和らげることができると患者さんからの「ありがとう」やりハビリを懸命に励み回復して行く姿は私たちの活力となっています。どんな忙しい中でも笑顔を忘れることなく、患者さんに寄り添い安全安楽な信頼される看護の提供ができるようこれからも努力していきます。



春秋園だより



皆様新年あけましておめでとうございます。新しい年を無事迎えられたこと皆様と我々職員全員で感謝したいと思います。

横浜の豪華客船で新型コロナウイルス感染症が発生したという情報から、あつという間に4年が経過しました。そして漸く昨年11月中旬から、まだ幾つかの条件はありますが、入所の方と御家族の方の直接面会をして頂けるようになりました。

今回のことを通じて、我々は人と人が挨拶を交わすことからはじまり、毎日が濃密な人間関係の中で生かされていたのだと改めて感じました。ソーシャルディスプレイが必要と言うことで、互いに1.5m離れてお話しを、と。

しかし我々老健での生活のお世話は1.5m離れては不可能でした。当然のように30cm、どころか直接タッチが当たり前。我々は改めて互いの体温を感じとれる距離の大切さ、そして言葉の大切さを再認識させられました。

春秋園は平成17年4月1日の開設で、今年で丸19年目を迎えます。その

中に、ベスト、コレラ、スペイン風邪等の疫病に連なるCOVID-19である歴史のひとコマがあることとなりました。もう一つ、春秋園の利用者の方々の中に、歴史を体現されている方々が5名いらっしゃいます。一世紀、つまり100歳以上の世界をご存じの102歳(1名)、101歳(3名)、100歳(1名)のお歴々です。

そのような流れの中で、春秋園をご利用されているすべての方々とそのご家族、そしてお世話させて頂く春秋園の職員が、コロナ前の様と同じ空気と時間を共有できるように努めています。本日も皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。
(施設長 高橋 元)



Dr 趣味リレー

研修医 成瀬 寅彦

バイオリン、サッカー、ゴルフ、スポーツ観戦、旅行、映画鑑賞、ルービックキューブなど多趣味な僕ですが、旅行についての懐古談を一つ。

大学6年の国家試験終了後、卒業旅行として3週間半ほど9カ国のヨーロッパ周遊をしたのですが、2カ国目フランスのエッフェル塔の下での出来事。カップ3つのうち1つにボールをいれ、シャッフルした後どこにボールが入っているかを当てるゲームをやっていて、先に別の参加者が1回外して残りカップ2つの状態でディーラーが僕に声をかけてきました。僕は半ば怪しみながらもこんな絶対当たると思っていると、現金50€をベット。するとドヤ顔で選んだカップにボールが入っていませんでした。後々調べてみるとシエルゲームというよくある詐欺で、2カ国目にして日本から持っていった現金を全て失い、猛反省。あの時の50€でワンランク上のご馳走が食べられたのになあ。皆さんもお気をつけください。

入 職 者

12月1日付

■経理課

事務

吉野 幹子

日々の業務を着実に覚え、視野を広げて行動できる人を目指し、力となれるよう努めます。

■医事情報部

事務

伊藤 倫英

64才の新人です。年下からも学ぶ事がたくさんあります。気配りこそ成功の鍵ですね。

■春秋園

■ケアサービス部

看護師

平柳 千絵子

他県から引越してきました。1日も早く職場や地域に慣れて、笑顔で働くことが目標です。

12月16日付

■医事情報部

事務

山根 智子

これまでの経験を活かしつつ、初心を忘れずに仕事に取り組みます。



《出来事ピックアップ》

クリスマス会 12/10

十二月十日(日)保育園でクリスマス会を行いました。

保育士のハンドベルで始まりました。きれいな音のクリスマスソングに、小さい子ども皆、聞き入っていました。

次はキャンドルサービスです。初めて持つキャンドルに少し緊張していた年長児と学童ですが、とても綺麗で幻想的でした。そして「ぐりとぐら」の劇です。可愛いうさぎの年長児と、元氣一杯の年長児のぐりとぐら。クリスマスパーティーの最後にサンタさんが



やってきました。地図と手紙をもらったから来たと手紙が紹介され、書いた子どもは照れながらも嬉しそうでした。サンタさんからプレゼントをもらい、一緒に踊って楽しい一時を過ごしました。

(保育課係長・榊原)

編集だより

凛とした清々しい空気が身体にしみ渡るこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

本年は辰年。滝を登る鯉のように、果敢にチャレンジしてみるのも良いかもしれません。

しかし何事も身体と心が資本。体調管理には気を付けて、無理をせずやっていきましょう。(Y・A)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

内科(禁煙外来)
整形外科(股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)
小児科(小児循環器、小児心理、小児免疫)
皮膚科(レーザー外来)
外科(下肢静脈瘤外来)
ストーマ外来
そけいヘルニア専門外来
透析外来
内視鏡検査
検診検査(乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ http://www.jojinkai.com

《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

